

4 改善試案

(1) 科目の構成

各科目の構成は次の通りとする。

科 目	標準単位数
英 語 I	5
英 語 II	5
英 語 III	5
英 語 会 話 I	2
英 語 会 話 II	2

(2) 各科目の内容

英語 I 中学校英語の内容に高等学校英語 Aの内容から、*印および**印のついた部分を削除したものを加える。

平易な基本文型を用いて自己表現することに重点をおく。

英語 II 現行英語 A に、英語 B の 2 年程度の言語材料を加えた内容とする。

抽象的な内容を加え、さらに文法学習を深める。

英語 III 英語 B の 2, 3 年程度の内容に、大学教養課程程度の内容も含め、高等教育を受けるに足る学力を養う。

英語会話 単なる日常会話にとどまらず、生徒の知的水準に合ったものとする。したがって英語 I との併修は認めず、英語 II, III と併修させる。

(3) 履修と単位認定

① 英語 I の修得後でなければ、英語 II あるいは英語会話 I の履修はできない。

② 英語 I の標準単位数は 5 単位であるが、年度中途における認定試験に合格すれば英語 II の履修を認める。

③ 英語 I の修得が 1 年次においてできない場合

は、次年度まで履修を継続する。

④ 単位の認定は、出席時数と 4 技能の修得の割合が 50% 以上であることを基準とする。

⑤ 英語 I の修得認定は、高校英語の水準をきめるものであるから、特に客観性妥当性について研究を深め、評価の内容方法を確立する。

⑥ 能力に応じた履修の構造および単位修得のパターンは次の通りである。

パターン	第 1 年	第 2 年次	第 3 年次	卒業時の単位数
A ₁	英語 I ⑤			5
A ₂	英語 I ⑤	英語 II ⑤ 英語会話 I ②		12
A ₃	英語 I ⑤	英語 II ⑤ 英語会話 I ②	英語 III ⑤ 英語会話 II ②	19

⑤は 5 単位を表す

ア 右の図において「第 1 年次」とは第 1 学年とかぎらない。第 2 学年、第 3 学年からでも英語を初めて学習する場合を表す。

イ 選択履修の幅をひろげ、学年を越えた開放講座とし、週の時間割上に固定し、他学年からも受講できるようにする。

ウ 現行の進路別コースの選択に比して、英語の選択についてのガイダンスが強化されなければならない。

エ 「英語 I」の再修時の授業の変化、質の向上が期待される。